



みーつけた!



大岡越前守の愛用品「すごろく盤」

「大岡政談」などで語り継がれ、テレビの時代劇などでも有名な大岡越前守（大岡忠相）の愛用品が、豊川稲荷にあるのをご存じでしょうか。

忠相は、延宝5（1677）年に旗本・大岡忠高の四男として生まれ、同族の大岡忠真の養子となった後、養父の死亡により当主となります。享保2（1717）年、8代將軍徳川吉宗によって江戸町奉行に登用され越前守と改め、町火消しの「いろは組」の結成や医療施設の整備など、多くの施策を行いました。町奉行として市民生活の安定化に努めた彼の行いに対し、庶民がさまざまな思いを託して伝えられたのが「大岡政談」です。

豊川稲荷信仰は、江戸時代後期の19世紀初め頃、盛んになります。この頃、豊川稲荷を含め、妙巖寺周辺の領主であった大岡家は、文政11（1828）年に豊川稲荷を江戸屋敷に勤請しました。これが、現在の東京赤坂豊川稲荷別院です。

そのような縁からか、彼が愛用したというすごろく盤や碁盤が豊川稲荷に残されており、境内の寺寶館（有料）で見ることができます。

